学校番号	1208

平成 31 年度　　指導と評価の年間計画

教科	科目（講座名）	単位数	指導学年	履修の条件
理　科	科学と人間生活	2	2	なし

使用教科書	副読本等
東京書籍　改訂　科学と人間生活	なし

準備物・費用等	必修／選択	全員履修	セット	自由選択	授業形態	講義	実技	実習
教科書・ノート		○				○		

1．担当者からのメッセージ（学習方法等）

科学と人間生活では、中学校理科および本校設定科目「基礎からの理科」で学習した内容を基礎として、自然に対する理解や科学技術の発展がこれまでの私たちの日常生活や社会にいかに影響を与え、どのような役割を果たしてきたかについて、観察・実験を通して科学的な見方や考え方を養い、科学に対する興味・関心を高めていく点に特色をもつ科目である。

2．学習の到達目標

自然と人間生活とのかかわりについて、身近な事物・生物・現象に関する観察、実験を通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

3．学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断・表現	c：観察・実験の技能	d：知識・理解
観点の趣旨	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探求しようとするとともに、科学的に考える態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理、分析し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	定期考査 〔主題学習〕事前学習と振り返りプリント	定期考査 〔主題学習〕ノート	定期考査、実験レポート 〔主題学習〕事前学習および実験結果・考察	演習問題、定期考査 〔主題学習〕内容のまとまり

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４．学習の活動

月	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4月 ～ 7月 中旬	生命の科学	植物の生育と光 光シグナルと生物 ヒトの視覚と光	○ ○ ○	○ ○	 ○	○ ○ ○	a:光合成と光エネルギーについて葉緑体を関連付け、光の強さや波長と光合成との関係を理解している。 b:動物の行動と光のかかわりについて、具体的例を挙げて説明できる。 c:ヒトの眼の構造を理解し、盲斑の検出実験ができる。 d:生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	授業プリント 定期考査 小テスト 実験レポート
7月 下旬 ～ 10月 上旬	物質の科学	衣料 食品	○ ○	○	 ○	○ ○	a:衣料をつくる繊維の種類や性質について知る。 b:繊維の製法や利用について理解し、説明することができる。 c:デンプンの消化について理解し、その仕組みについて実験を通して表現することができる。 d:食とエネルギーに関して理解し、説明することができる。	授業プリント 定期考査
10月 中旬 ～ 11月 下旬	光や熱の科学	目に見える光の世界 光の進み方とその基本性質 見えない光とその応用	○ ○ ○	 ○		○ ○ ○	a:光の３原色をはじめとし、光の色について説明することができる。 b:光の進み方を理解し、図示することができる。 c:見えない光についてを知る。 d:見えない光について日常生活との関わりについて説明できる。	授業プリント 定期考査
12月 上旬 ～ 2月	宇宙や地球の科学	身の回の景観の成り立ち 自然災害と人間	○ ○	○ ○		○ ○	a:大陸についてプレートテクトニクスの観点から説明できる。 b:地球の動きで地形、自然景観についてしる。 c:自然災害と人間について、これまでの被害について知り、対策について考える。 d:自然災害ついて関心を持ち、自ら調べ、説明することができる。	授業プリント 定期考査 小テスト